

I. ごあいさつ

阪神電車をご利用いただくとともに、阪神グループにご愛顧を賜りまして、誠にありがとうございます。また、日頃より沿線の皆様には、鉄道事業の運営にご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年 10 月に神戸高速線の運営形態を変更し、当社が元町駅～西代駅間の鉄道事業を運営し、安全管理を担うことになりました。2 年前の阪神なんば線開通に続き、当社が運営する路線が拡大する中で、今後も社員一同、気を引き締め、安全運行に努めてまいります。

さて、「安全施策 2010」では、安全管理規程の確実な推進、安全確保を第一とする企業風土の醸成、コンプライアンスの徹底等に引き続き取り組みましたほか、「安全施策の『有効性の検証』」を安全重点施策のひとつに掲げ、事故防止対策、教育訓練及び内部監査の有効性を検証する手法、体制等を整備し、安全性の更なる向上に努めました。

平成 22(2010)年度の安全投資につきましては、連続立体交差工事・三宮駅の大規模改良工事の継続、御影駅のバリアフリー化・プラットフォーム改良、芦屋駅の上りプラットフォーム拡幅及び駅の防犯対策用カメラの増設等を実施し、設備面でもより一層の安全性向上を図りました。さらに、神戸高速線では、運行管理システム等を当社システムへ統合し、運行管理の一元化を行いました。また、社員教育設備では、教習所の運転シミュレーターを更新し、社員の知識・技能向上に活用してまいります。

社員一同が安全施策に邁進しましたことにより、平成 22(2010)年度におきましても、安全目標であった「責任事故ゼロの継続」を達成し、近畿運輸局長から 25 年 11 か月間の責任事故皆無に対する表彰を頂きました。また、「運輸安全マネジメント評価」においても、安全管理体制の構築や種々の安全施策への取組みに対して、国土交通省からの各提言に対する的確な対応により、評価を頂いているところです。

最後に、今年 3 月に未曾有の被害をもたらした東日本大震災の被災者の方に心からお見舞い申し上げます。この教訓を活かすべく、当社としましては、地震・津波対策の見直し等を鋭意進めるなど、これまで蓄積され、醸成されてきた取組みを確実に継承し、安全管理体制をより盤石なものにするために最善を尽くしてまいります。

以下に「安全報告書 2011」として、当社の安全確保の取組み実績などについて報告いたします。



阪神電気鉄道株式会社

取締役社長

藤原 崇 起

平成23年7月